「酪農に対する私の考え」

北海道美幌農業高等学校
農業科学科　1年　松木　憲一

私の家では、搾乳牛が26頭、育成牛が20頭という少ない頭数で経営しています。しています。周りの酪農家を見てみると、もっとたくさんの牛を搾っているところもたくさんあります。

私は少ない頭数で経営しているところと、たくさんの頭数で経営しているのでは、経営にどのような差が生じるのか考えました。まず、たくさんの牛を使って経営している酪農家は、その年に何頭か搾乳牛が死んだとしても、そんなに大きな変化はありません。しかし、少ない頭数で経営している酪農家は、一頭でも死んでしまうと、その年の乳量、売上げにものすごい影響が出てしまいます。我が家はまさにそうなので一頭一頭の大切さが大規模酪農よりも大きいように感じます。

そして、少ない頭数で経営している方は、その一頭一頭をしっかりと、手入れできるから、よい質の牛乳ができると思います。逆にたくさんの牛を使って経営している酪農家は、一頭一頭を丁寧に手入れすることは難しいけれど、その分たくさん搾って経営を成り立たせていると感じます。まぁ人員を増員すれば大規模でも一頭一頭の細かい管理もできるのかもしれないけど、労働コストがかかりすぎるような気がします。

さらに、たくさんの牛を使って経営している酪農家では、その分たくさんの牧草地やデントコーンを作る土地が必要になります。ということは、土地を買ったり、借りたりするときにたくさんのお金が必要です。つまりお金の出入りの額も莫大になってきてしまいます。逆に少ない頭数で経営している酪農家はあまり牧草地ヤデントコーンを作る土地が大きくなくてよいので、少ない頭数で経営している酪農家は、お金の出入りの額は小規模になります。

つまりはどちらにも、メリット、デメリットがあるということです。収入も大きいが、支出も大きい大規模酪農と、収入も多くないが、支出も小さい小規模酪農か、私には今のところどちらがいいとは言えません。

しかし現在、宮崎県を中心に全国的に問題が広がっている口蹄疫が上記のことに大きく関係すると思い、非常に気になっています。なぜなら、その家で口蹄疫が確認された場合、

その家の牛や豚を全て殺処分しなければならないからです。大規模酪農を営んでいる家にとっては非常に大打撃で、このような突発的な事態の時、一頭一頭の価値よりも、全頭数の価値を考えると、我が家のような小規模酪農の比ではない損害をうけてしまうからです。

私は口蹄疫にかかった牛がいる家の家畜全てを殺処分するのは行き過ぎな気がしています。さらに、ワクチンを打って感染を予防して、さらに殺処分してしまうと、ワクチンの代金がかかり、さらにその家畜の価格自体が0円になってしまうからです。政府も家畜一頭につき何万円かの補助金を出すと言っていますが、その額は少ないと感じています。なぜなら補助金額を上げないと、大規模な酪農家は死に体で再生しないと思います。数年前の大騒動の時のように再び北海道に口蹄疫が広がらないことを、今すごく祈っています。

私自身いろんなことを考えますが、何が良くて何が悪いのか答えは見つかっていません。だから今農業高校で酪農について、良いこと、悪いことを考えながら必死で勉強しています。部活動も乳牛研究会に所属しており、学校の育成牛の世話をメインでやっています。学校にはホルスタインだけでなく、ジャージー種の牛もいて、その違いなども今後しっかり勉強していこうと考えています。

そして、高校を卒業したら大学に進学して、さらに専門的な知識と、同じこころざしを持った人たちと切磋琢磨して、経営について学んだりしたいです。その後酪農ヘルパーの仕事に就いていろんな酪農家を見て見たいと考えています。もちろん酪農ヘルパーが生涯の仕事ではなく、自分自身が家を継ぐとき、どのような経営をすればよいのか学ぶための仕事だと考えています。上記のように今の私自身では、大規模酪農がよいのか、小規模酪農がよいのか、その見極めすらできないでいます。だから、いろんな酪農家さんの経営スタイルを見るための仕事として酪農ヘルパーをやります。期間は長くても10年、30代前半には就農して、自営者としてがんばっていきたいです。

今考える将来の展望は、小規模経営で一頭一頭の乳牛品質を向上させてホルスタインショーなどに出品させる牛を作りたいです。さらに、ジャージー種やブラウンスイス種のような珍しい品種を経営に取り入れていき、ブランド力を上げたいとも考えています。

そして、今一番考えることは、放牧地の作製です。現在私の家では放牧をしていません。私は、牛のことを考えると放牧をさせた方が健康的にもよいと思うので、させたいです。しかし、うちの近くには、放牧できるような広い牧草地がありません。だから畑作用の畑を

牧草地にしてでも放牧酪農をするべきだと考えています。そうしないと今後不健康な牛がどんどん出てきて、病気になったり、死んでしまったりすると大変だと思います。しかし、それをすると、畑でとれる作物の量がとても減ってしまうので、経営がつらくなる可能性が出てきます。とても悩むところです。父も放牧地のことを考えているらしく、放牧地は作ろうと思っているらしいですが、経営のことについては私に話してくれません。だから私も早く一人前になって、牛のことと経営のことを父と議論できるようになりたいです。

今考えている将来の展望と道が正しいかどうかはわかりませんが、どんな道筋をたどっても、将来私は日本の酪農を支える人に絶対になるということは間違いありません。